

浜通りの水稲、野菜の有機・特別栽培を応援します。

浜通りオーガニックだより

23号 平成20年3月5日

ホームページにも掲載

<http://www.pref.fukushima.jp/nourin-sousou-fut/>

発行 浜通り!方部有機栽培等普及推進プロジェクト会議
事務局 相双農林事務所双葉農業普及所有機農産物推進担当
電話 0240-22-7982 FAX 0240-22-3735

地域の動き 検討会等の開催

<第8回浜通り!方部有機栽培等普及推進プロジェクト会議を開催(浜プロ)>

2月13日に浜通り!各地域に設置している特別栽培・有機栽培の12ヶ所の実証ほについて、次年度の栽培設計に関係者で協議しました(写1)。有機栽培の水稲では、雑草対策、野菜では病害虫対策について課題が残っており、課題解決にむけ整理した設計にすること。加えて、特別栽培は普及推進段階にあることから、普及マニュアル化に向けて、一歩踏み込んだ設計にすることなどが確認されました。

<第3回双葉地域有機農産物等普及推進会議を開催(相双農林双葉農業普及所)>

2月29日に双葉地方の有機農産物等の普及推進のため、県関係機関、市町村、土地改良区、農協、生産者代表を招いて開催しました。会議では、**双葉郡内の有機栽培特別栽培実証ほの取組み成果と課題**について、担当者が、スライドを用いて説明を行い、併せて実証ほ担当生産者から補足説明をもらい、検討を行いました(写2)。また、引き続き**双葉郡内での有機栽培及び特別栽培の取組み状況**について、関係者から説明を受け、意見交換を行いました。会議終了後には収穫間近となっている双葉町のミズナの実証ほ場を視察検討しました。

<いわき地域有機農産物等普及推進会議を開催(いわき農林事務所農業普及部)>

2月7日に県いわき合同庁舎において、本年度第3回目のいわき地域有機農産物等普及推進会議を開催しました。会議では、平成19年度の**推進実績や実証ほまでの成績を検討**するとともに、有機農産物等の普及推進について意見交換を行いました(写3)。今回出席された2名の流通・販売関係者の方々からは、最近の諸情勢を背景に消費者の食品への安全志向がより強まる中、**品目数の増加や周年での供給など市場側から見た今後の有機農産物等に対する期待の大きさ**が述べられました。

<平成20年産JAふたば特別栽培ミニトマト指導会を開催(JAふたば)>

2月25日に育苗指導会に先立ち、平成20年産の特別栽培ミニトマト栽培基準の最終確認を行いました。前年度からの変更点として、土づくりに更に重きをおくこと、加えて、使用予定農薬の一部を見直し、問題となっていた斑点病の対策強化を図ることとしました。また、新たに**次年度はGAPについて取り組む**ため、その制度の理解を深めました(写4)。

<JAそうま水稲特別栽培指導会を開催(JAそうま)>

2月19日にJAそうま新地営農経済課主催で水稲特別栽培指導会が開催され、相双農林事務所農業普及部から特別栽培米のポイント プール育苗 平成19産米のカムシ類による斑点米被害の現状 難防除雑草の防除について、JAそうま新地営農経済課からは栽培管理日誌の書き方 看板の設置について、それぞれ説明を行いました。**20年度は新地町内で70名の生産者が特別栽培に取り組む予定**ですが、午後と夜の2回の指導会で約40名の出席があり、特別栽培に対する意欲の高さを感じられました。3月には、相馬市、南相馬市鹿島区でも同様の指導会が開催される予定です。

<アイガモ導入打合せ(相双農林事務所双葉普及所)>

2月21日に双葉農業普及所で平成20年度アイガモ導入打合せを開催しました。新規に1名の生産者に加え、**アイガモの除草効果、獣害対策や食肉加工販売等について**検討しました。今後も双葉地方の環境にやさしい米作りをアイガモと一緒にPRしていく予定です。

有機栽培等実証ほの主な動き

1 相双農林事務所 農業普及部

相馬地方の水稲(シビカリ)の実証ほは、平成20年度の栽培設計について担当農家と打合せを行いました。

有機栽培は前年の紙マルチ栽培にかえて、3回代かきと機械除草を組み合わせた除草体系の実証としました。また、昨年多発したいもち病対策に万全を期す予定です。

特別栽培は相馬地方の特裁推進のバックデータとして活用できるよう、JAの栽培暦を基本としましたが、全面倒伏



写1 次年度設計の協議(2/13)



写2 スライドを用いた説明(2/29)



写3 普及推進会議(2/7)



写4 GAPの制度説明(2/25)



写5 プール育苗の準備(2/16)



写6 地域野焼き(3/3)

した昨年度の反省から基肥量をやや減量した設計としました。また、育苗については管内でも取り組む農家数が増加してきているプール育苗について実証する予定で、現在育苗ハウスの整地作業を進めているところです(写5)。実証への進捗状況は、3月2日に特別栽培実証展示圃の周辺地域一斉で畦畔の野焼きを実施しました(写6)。今後は温湯消毒や土改材散布・耕起等の作業を予定しています。

野菜(ブロッコリー)の特別栽培は、平成20年度の栽培設計について打合せを行いました。内容は19年度と同様に、フェロモントラップを設置して、害虫(コナガ、ハスモンヨトウ)の発生活動を調査します。今後の作業予定として、3月下旬に播種をする予定です。

2 相双農林事務所 双葉農業普及所

水稻の有機栽培(富岡町)は、実証最終年の5年目を向かえ、春作業の準備を進めています。本年度はアイガモの除草効果を高めるため、本田への放飼時期や条件など栽培の安定を目指した取り組みを行います。

露地野菜(良江町)の有機栽培レタスは、2月に入り徐々に結球し、結球レタスの形状となりましたが、これまでの寒冬の影響から葉傷みが発生し、結球品質は良くありません(写7,8)。当実証までは、殺虫剤の削減をねらいに遅い作型(寒い作型)を試みましたが、通常より1ヶ月遅い、10月上旬は種の露地の作型は、浜通りであっても品質上厳しくことがわかりました。このことから、当地域では9月上～中旬は種が好ましいようです。

施設野菜(双葉町)の有機栽培ミズナは、葉長13程度まで伸長し、3月中旬からは出荷となる見込みです(写9,10)。年明け以降寒く、予定より出荷開始時期は遅れましたが、心配されたアブラムシやヤサイゾウムシの発生は見られず、上々の品質で出荷できる見込みです。これは、栽培前の被害残渣撤去、深耕とハウス内外の防草シート設置の複合効果であると考えています。

周年ホウレンソウ(双葉町)の有機栽培は、本年度、5回転目の収穫が2月5日より開始され、ほぼ収穫終了となっています(写11)。苗立枯病の発生から苗立率は低下しましたが、寒冬のため生育日数がかかったことで株重が重く、最終的に計画数量を上回る1,110t/10a(慣行対比96%)の収量となりました。

ブルーベリーの有機栽培(富岡町)は、せん定が終了しました(写12)。今年度は昨年より先花芽の着生が良い傾向で、すっきりとした樹形となりました。今後は3月に基肥を散布する予定です。



写7 トネル有機栽培レタス(2/28)



写8 10cm程度に結球した有機レタス(2/28)



写9 有機栽培ミズナ(2/27)



写10 有機栽培ミズナ拡大(2/27)



写11 ほぼ収穫が終了したホウレンソウ(2/25)



写12 剪定されたブルーベリー(3/4)

3 いわき農林事務所 農業普及部

ネギの有機栽培は、収穫の終盤をむかえています。2月23日から24日にかけての強風では、心配された葉折れも少なく、ほ場に残っているネギは出荷を今か今かと待ちわびています(写13)。

トマトの特別栽培は、現在第3～4段果房の収穫を迎えています。2月20日からは主枝の摘芯を開始しました。また、コナジラミ類の発生が見られるため、黄色粘着シート等による防除に努めています(写14)。生育は順調ですが、現在収穫中のものはやや空洞果が多くなっています。2月26日には第11段開花が開花中です(写15)。



写13 有機栽培ネギ(2/26)



写14 特別栽培トマト(2/26)



写15 特別栽培トマト(2/26)